

説明資料

園芸（植物介在）療法について

浅野 東京農業大学教授

## 園芸（植物介在）療法について

### 1. 変遷

園芸療法（Horticultural Therapy）という言葉はアメリカ園芸療法協会（1973年設立）が、1987年から統一化して使用するようになった言葉である。それ以前は、Hortotherapy Flora Therapy Garden Therapy Plant Therapy などのさまざまな言葉が使われていた。しかし、その行為は、古くエジプト時代にも見られた。1798年にはベンジャミン・ラッシュユ医師が、園芸が患者の治療に寄与すると残している。1856年に書かれたイギリスの救護院の資料にも屋外活動による精神の安定を認めていた。

日本における園芸療法は、1930年代から、加藤普佐次郎次が都内の松沢病院で、実践し一連の効果をあげた。しかしそれらの作業は、戦後盛んになった作業療法に統合され、日の目を見ることはなかった。1990年になると、九州大学名誉教授松尾英輔氏が、その詳細を紹介し、注目を浴びる分野となった。その後、2001年には人間の幸福の実現のために、植物を、どのように活用するかを考える学会「人間・植物関係学会」が設立され、2004年には、兵庫県で園芸療法国際サミット、2006年には東京農業大学で4年制大学での園芸療法を学ぶことが可能となった。また2005年には、第一回の人間・植物関係学会認定の登録園芸療法士が誕生した。

### 2. 園芸療法とはなにか

以上のようにさまざまな呼び名のもとに園芸療法という言葉が取り上げられるようになった。しかしこれらは必ずしも「園芸作業」による治療ではなく、植物の鑑賞なども含まれている。すなわち、「何らかの形で植物を道具として活用した療法」という意味をもち、正確には、Plants assisted therapy と呼ぶべきものである。

人間・植物関係学会では、園芸療法を次のように考えている。園芸療法は「医療や福祉の領域で支援を必要とする人たち（療法的かかわりを要する人々）の幸福を、園芸を通して支援する活動」であり、園芸療法士は、「これを実践するために欠かせない豊かな人間性と高度の知識・技術をもつ専門家」である。

医療や福祉領域で支援を必要とする対象が存在する

各対象者の治療(もしくは支援)の目的の設定

生きた植物を何らかの形で活用するプログラム

の条件を満たし、かつその実施をセラピストが行ったときに、園芸療法のセッションが成立するといえる。

